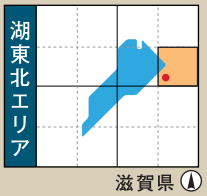
NO.001

史跡

特別史跡

彦根城跡（ひこねじょうあと）

彦根市金亀町・尾末町　昭和26年6月9日指定



江戸幕府の重臣として活躍した井伊家の居城である彦根城は、標高136mの金亀山（こんきやま）の山頂に建つ平山城です。城下町、堀、武家屋敷、城郭から構成される総構えの城郭構造は、中世城郭から発達した近世城郭の完成した姿をとどめています。

当時のできごと	
1603年	徳川家康 江戸幕府を開く
1606年	江戸城の天守完成
1622年	元和大殉教

井伊家と彦根藩

彦根藩は、徳川四天王として名高い井伊直政が、18万石の大名として封じられたことに始まります。立藩に際して幕府から課せられた使命は、西国大名の監視と、禁裏（きんり）守護の役割でした。東国と西国の境にあり、京都へも至近の彦根に築城されたことは、歴史的、地理的な必然だったのかも知れません。このような重要な役割を担っていたので、彦根藩は国替を免除され、藩主は江戸詰めで、かつ、会津、高松の両松平家と並ぶ破格の高職を与えられるという、他藩に例のない待遇でした。加増を重ね、元和2年（1616）には実質上35万石を領する大大名となっています。彦根藩の基礎を築いた2代直孝は、徳川3代に仕え幕政を補佐するとともに、地方（じかた：領国）の支配にも力を尽くし、近江国内の愛知、蒲生、神崎、犬上、坂田、東浅井、伊香郡の28万石を支配しました。

明治維新に際しては、藩論が分かれるものの、次第に勤王論が台頭し、戊辰戦争に際しては討幕派にくみします。



彦根城　北上空から



彦根城　東上空から

彦根城の構造

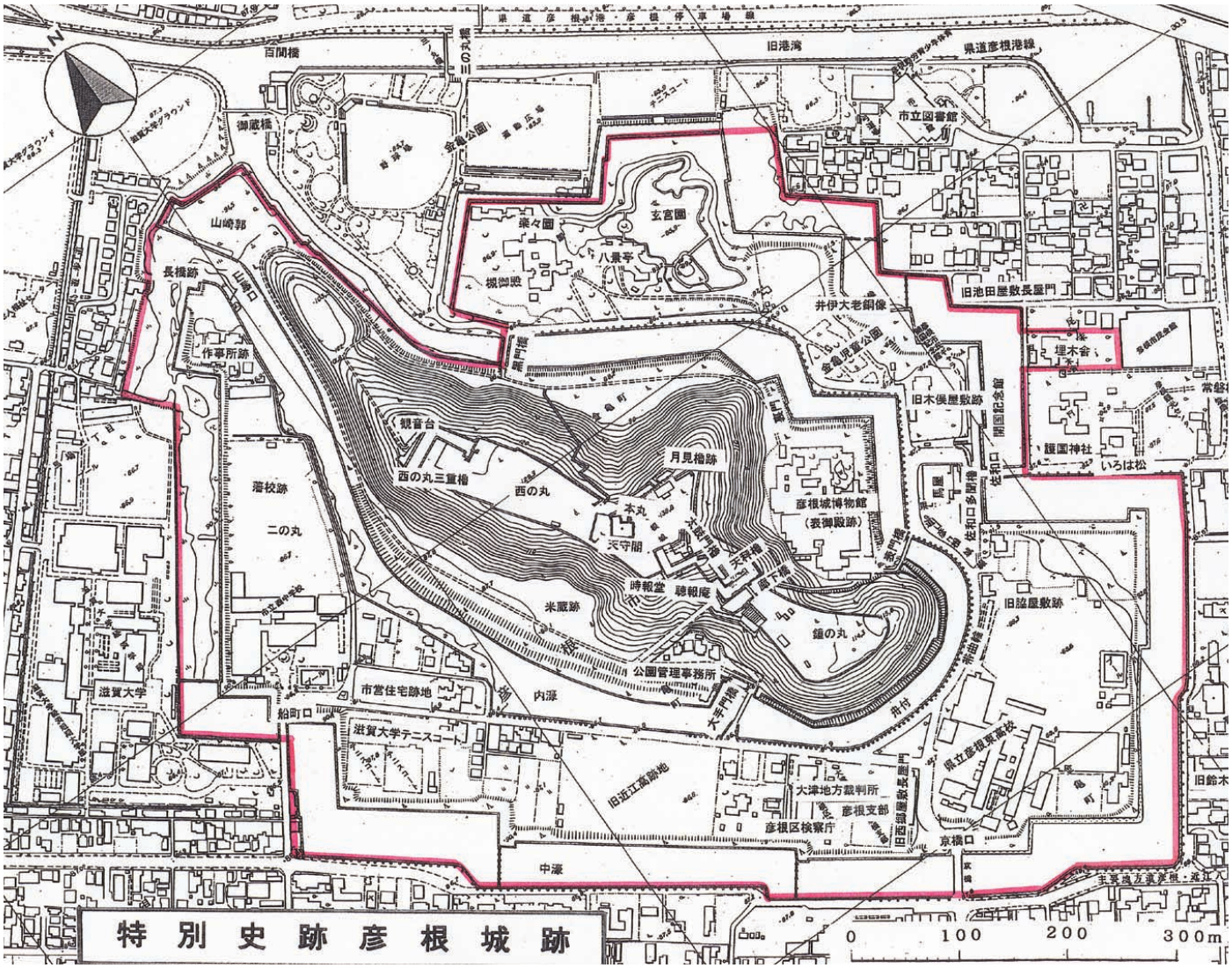
関ヶ原の合戦の後、徳川家康の重臣井伊直政は、石田三成の旧領18万石を与えられ、佐和山城に入城しますが、その子直勝は慶長8年（1603）に新城の築城に着手します。これは、井伊氏が、徳川氏に敵対した石田三成の影響が強く残る佐和山城を嫌ったことと、中世城郭の佐和山城では銃砲を用いた戦術に対応しきれなくなったこと、政治経済の中心として城と城下町を必要としたことなど、様々な理由によります。彦根城に居城が移るに際し、佐和山城は、現況では遺構を確認できないほど徹底的に破城（はじょう）されます。

築城に際しては、7カ国12大名に手伝い普請が命じられたにもかかわらず長期間を要し、一応の完成を見たのは元和8年（1622）のことです。さらに、城下町がその姿を整えるには、その後20年余りが経過しています。

城は、東に佐和山、西に琵琶湖を控えた標高136mの金亀山山頂から麓にかけて配置されています。本丸などの重要施設は金亀山に配され、山の周囲に内堀を巡らし防御します。内堀の外側に二ノ丸、さらに中堀を隔てて三ノ丸が置かれ、三ノ丸外堀の東と南の外周に城下町が展開します。さらにその南端は、流路を人工的に変えた芹川が、総堀の役目を果たします。また、城の北に広がる内湖も堀の役割を果たしています。

天守や、堀などの城の主要な部分は高い石垣で固められ、近世城郭の完成した姿をよく残しています。

今なお多くの建物が残り、天守・附櫓・多聞櫓が国宝であるほか、ほとんどの建物が重要文化財に指定されています。また、中堀の内側と三ノ丸にある埋木舎（うもれぎしゃ）が特別史跡に指定されているほか、藩主の常の住まいの場にある玄宮楽々園（学習シートNo.078）、松原下屋敷庭園（学習シートNo.079）が名勝に指定されています。





彦根城天守



二の丸佐和口多門櫓



天秤櫓

彦根城の城郭建築

天守附櫓および多聞櫓

彦根城全体の完成には20年余りの歳月を要しましたが、城の中心となる天守は着工の3年後、慶長11年(1606）には完成しています。三重三階の構造で、石垣内に階段室があります。また、天守の北西隅に隅櫓が付き、さらに長い多聞櫓が連なります。

この天守は、井伊家年譜によれば、家康の命により大津城から移築し、大工浜野喜兵衛が作り直したと記されています。昭和35年（1960）に実施した解体修理では、「慶長11年大工浜野喜兵衛」の墨書銘が発見され、さらにこの天守が前身天守（四重五階）の材料を使って建てられていることが判明しました。

天守の外観は複雑ですが、構造的には入母屋造の上に二重の楼を乗せた形で、これに千鳥破風や唐破風をつけて屋根に変化を持たせています。2階、3階に火灯窓をつけるなど華やかな装飾と巧妙な建築技法が特徴となっています。

明治時代に取り壊される予定でしたが、この姿を愛でた明治天皇の命により、破却を免れたと伝えられています。

天秤櫓

本丸の東にある変わった形の櫓です。凹形の平面の多聞櫓の両隅に二重の櫓を乗せ、この二重櫓の間に城門を開きます。天秤櫓は、表口と大手道からの通路と交わる深い空堀を介して鐘の丸と向き合い、この間を廊下橋と呼ばれていた高橋で結んでいます。他に例を見ない櫓の形式ですが、均整のとれた美しさと、城郭の堅固さを兼ね備えた建築です。



彦根城石垣

彦根城の石垣

彦根城の主要部分は、ほぼ全面が石垣により固められています。本格的な石垣の城郭への導入は安土城（学習シートNo.002）からとされますが、近年の城郭の調査により、安土城に先行する事例も見られるようになってきました（学習シートNo.060：鎌刃城跡）。

彦根城の石垣は、安土城と同様、野面（のづら）積みですが、隅の部分は整形した長方形の石材で算木積とし、しかも上方に反りを持たせるなど、安土城の石垣よりも進化した技術を見ることができます。

関連する文化財

佐和山城跡（彦根市）	境目の城から信長の宿城を経て石田三成の居城となる
玄宮楽々園（彦根市）	学習シートNo.078
旧彦根藩下屋敷（お浜御殿）庭園（彦根市）	学習シートNo.079
彦根屏風	江戸時代初期に風俗を描いた屏風。彦根城博物館蔵

もっと深く知りたい

彦根城博物館	☎0749-22-6100	彦根市金亀町1-1
安土城考古博物館	☎0748-46-2424	蒲生郡安土町下豊浦6678
彦根市教育委員会	☎0749-24-7971	彦根市尾末町1-38

彦根城跡へのアクセス

JR琵琶湖線　彦根駅下車
名神高速道路　彦根インター



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔日本城郭体系〕新人物往来社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月